

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400771		
法人名	社会福祉法人 叶福社会		
事業所名	グループホーム大東ヶ丘		
所在地	青森県五所川原市金木町芦野363番地141		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

組織で処遇に対する年間計画の冊子(マニュアル)を作成し、毎年職員会議を開催し、全職員の共通理解を図っている。
 利用者の地域支援として夏祭りや文化祭等に参加し、地域の方々に事業所の役割や機能をアピールしている。
 利用者の支援として利用者と家族の触れ合う機会を設け、面会行事を実施している。
 災害対策として毎月1回、避難訓練を実施し、うち1回は消防署立会いのもと、指導を受けている。
 8月に夜間避難訓練を実施し、日頃から災害に対する体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同法人にある障害者施設の利用者が高齢になった際を想定して設立された経緯がある。現在は障害者施設の利用者のみならず、広く利用者を支援している。
 利用者は、ホールでスタッフとの会話を通して、季節の制作活動を楽しんでいる。
 馴染みの方との電話を取り次いでいるほか、野菜の差し入れや地域の店の訪問販売を利用されている利用者があり、ホールに居たくなるような楽しい雰囲気配慮しながら、地域との関わりを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護職員が確認できるよう、玄関等に理念を掲げ、職員は理念の意味を理解し、日々のサービス提供に反映させている。	地域密着型サービスの役割に触れた、ホーム独自の理念がある。職員は理念を縮小コピーした物を持ち歩いているほか、毎月の勉強会の際に理念を振り返る等共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出や地域との交流が制限され、実施できていない。同様に母体施設と共同での夏まつりも中止としている。	コロナ禍前は毎年法人主催の夏祭りを行っており、総勢300名ほど参加者があった。地域の秋まつりに利用者の作品を出品したり、地域の店の訪問販売等も活用する等、地域との関りを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の状況にあり、地域との関わりを持ちにくい状況にあり、実施できていない。地域の方に向けた発信の方法を検討中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面での開催となっている。感想や意見、質問等を返信していただき、意見交換を行っている。年1回、自己評価及び外部評価の結果について説明している。	運営推進会議の委員は市の担当課、民生委員、地域の代表、家族代表等がメンバーとなっている。委員からは地域の行事の情報や、災害時の避難場所の変更等、様々な意見をいただいている。運営推進会議で出された意見は今後のサービス向上に役立てていくように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出し、ホームの現状を報告している。また、制度等の疑問点等、指導や助言をいただいている。	施設のパンフレットに変更があった場合は市に配布したり、新型コロナウイルスの予防接種についての連絡をもらう等、日ごろから連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを整備し、職員に周知している。内部、外部研修では、身体拘束について正しく理解する機会を設け、取り組んでいる。	現在身体拘束はないが、マニュアル、同意書等は整備している他、身体拘束廃止委員会も設置しており、職員はみな身体拘束による身体的、精神的弊害について理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を実施し、職員の理解を深め、虐待の見過ごしがないよう、日々のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部の研修で学ぶ機会を設けており、今後もホーム内で理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書と契約書をもとに、利用者や家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。思いや不安、困りごとはいつでも相談できる旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望、不安に思っていること等については、玄関先に意見・苦情箱を設置し、思いに添えるよう努めている。	季節のものを製作する過程や日常会話から利用者とのコミュニケーションを大切に、意見や苦情を職員に話せるような関係作りに努めている。玄関に苦情箱を設置しているほか、重要事項説明書に苦情受付窓口を明示している。出された苦情は職員会議等で検討し、申送りや定例会議で話し合い、職員間で共有してより良いケアに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの運営について管理者が一方向的に進めるのではなく、職員会議やミーティングの時間等、随時職員が意見を言えるような環境設定に努めている。	職員会議で業務の改善策等を話し合っており、様々な意見や情報を共有しながら対応している。職員の意見から車椅子に乗ったままで測れる体重計を購入する等、意見が反映される仕組みが整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断や予防接種等、健康を保つための体制を整えている他、就業規則に従って運営し、職員がやりがいを持って働いてもらうような環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望休暇や有給休暇を取得する等、就業環境は整備されている。職員がやりがいを持って働けるような環境作りにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区内・外の組織の研修会等に参加し、関係事業所等との交流や情報交換を図り、サービスの向上に反映している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で本人や家族と面談し、関係機関からも情報を提供してもらい、できる限り思いに応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族との信頼関係を築くことを意識しながら努めている。また本人・家族の不安や悩み等の情報は書面に残し、職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているニーズに対し、可能な限り柔軟な対応に努めている。他のサービスが必要であれば、紹介等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で入居者のできることに着目し、少しでも活躍できるよう支援し、共に支え合うことを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ連絡を行い、日頃の様子等を報告している。また情報を共有し、本人と家族の絆が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、外出や地域との交流、面会は、極力控えている。	入居前のアセスメントや、日々のコミュニケーションで得られた情報を職員間で共有し、把握するように努めている。家族からの電話のとりつぎを支援する等、これまでの交流を継続できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりをもち、職員が間に入り、話題を提供するほか、会話の輪を広げて孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切に、必要に応じて相談や支援に努め、退居先へは、サービス終了後も相談に応じる等、できる限り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得たり、日々の関わりの中から思いや意向をくみ取り、把握するよう努め、その人らしく暮らせるように支援している。	職員は担当制だが、全職員が利用者の状況を把握しており、情報を共有し、利用者の視点に立って意向を把握するよう努めている。面会等にて家族や関係者からも情報収集し、よりよいケアに反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、関係機関等から情報収集し、入居後の生活に反映できるようにしている。また、日々の関わりの中から情報を引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の1日の過ごし方や体調等を把握し、記録や申し送りにて情報共有を図り、サービス向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の意見や要望等を引き出し、話し合いをもとに介護計画に反映させている。	職員は日頃から気付いたことがあれば職員同士で情報を共有しており計画作成に反映している。家族には電話での聞き取りを行い、今後の支援について意見、要望を確認し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や健康状況等について記録し、職員間で共有するほか、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況を把握し、ニーズに合ったサービスができるよう、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍によって外出の機会が少なく、地域資源を利用することが難しい状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診状況を把握し、これまでのかかりつけ医を継続した受診支援を行っている。医療機関との連携を図り、受診状況はその都度、入居者や家族に報告している。	入居前のアセスメントでこれまでの受療状況を確認しており、入居後の受診についても利用者、家族とも話し合い、意思確認している。利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持った職員配置がなく、訪問看護ステーションとの連絡体制は整えられていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族と共に立ち会い、医療機関と情報交換を行うほか、病棟や各病院の地域連携室との関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対応していないが、日常的な健康管理や急変時の対応について、入居者や家族から要望等を伺い、事業所としての対応について話し合いを行っている。	利用者の重度化や終末期の対応について説明し、事業所の方針を明確にしている。普段の健康管理や急変時の対応等については、日頃から利用者、家族、医療機関と話し合いをし、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含めて、応急手当やその後の連絡、対応方法等に関する緊急時対応マニュアルを作成し、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、昼夜を想定した避難訓練や設備機器の使用に関する訓練等を行っている。災害時の対応として、消防署等からの理解・協力が得られるように働きかけている。	日中だけではなく、夜間も想定した避難訓練を年に8回行っている。大雨の際も市から避難指示があり、一時隣接する体育館に避難した。災害発生時に備えて、隣接する障がい者施設に備蓄品やストーブ等が用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格と尊厳を常に意識し、適切な対応に配慮している。守秘義務や個人情報の重要性を認識すると共にプライバシーの保護にも努めている。	利用者の羞恥心に配慮し、利用者の性格や個性に合わせた声掛けを行っている。利用者への声掛けや対応について職員会議等で改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ入居者の希望に添えるような対応を行い、意思表示ができない場合は表情や仕草を読み取り、思いを表せるような働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその1日の流れはあるが、入居者一人ひとりの気分や要望に応じて、臨機応変に対応できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについては、自己選択ができるようにしている。選択ができない方にも本人の好みを配慮し、清潔で快適な身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや好き嫌いの相談をしたり、食事形状や好みを一人ひとりに合わせて提供している。配膳、片付けは手伝える方には手伝ってもらっている。	献立は法人の栄養士が作成している。利用者の好き嫌いや禁止食も把握しており、その都度代替品で対応している。利用者には食事の準備等をお願いすることもあり、準備を含めて楽しい時間になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は入居者の状態を把握し、支援できるようにしている。また、入居者一人ひとりの嗜好等も考慮して必要摂取量の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者個々の力量に応じて、準備や声がけ介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、入居者に合わせた適切な排泄誘導、声掛けにより、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を記録している。失禁がある利用者には定時のトイレ誘導や、失禁の都度対応している。排泄の自立について職員会議等で話し合う時間を設けており、利用者の排泄の自立について取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物等を朝食に取り入れたり、適度な運動、食事量等をチェックして自然な排泄を働きかけている。便秘が続く入居者には、医師の指示のもと、下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴習慣や希望、体調等、羞恥心に配慮しながらできる限り個々に合わせた入浴支援を行っている。入浴拒否に対しては無理強いせず、柔軟に対応している。	利用者の入浴時間や温度、順番のこだわり等を把握し、一人ひとりに合わせて入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動的に過ごし、夜間は安眠できるよう個々の状況に応じて支援している。不眠時には話を傾聴したり、一緒に行動しながら入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬状況を把握し、飲み忘れや誤薬のないように体制を整えている。処方内容の変更があった場合は、全職員間に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者、家族からの情報をもとに生活歴から趣味、嗜好を考慮したうえで、手伝いや趣味活動を行い、役割や生きがいを持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の状況にあり、外出制限によって病院受診以外の外出はできていない。天気の良い日には、散歩を兼ねてホームの敷地内を歩き、気分転換を図っている。	天気のいい日は施設のまわりを散歩をする等、こまめな外出支援を行っている。コロナ禍前は年間の行事予定を作成し、月に1回程度外出していた。外出行事があるときは事前に家族にもお知らせし、参加を呼び掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の力量に応じて、少額の所持金を自由に使えるようにしている。それ以外の方はホームで管理し、希望時に職員が代行する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて、いつでも電話をかけられるよう支援をしている。遠方のご家族には定期的に電話をして近況を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に草花等を飾ったり、写真や手作りの工作物を飾る等、居心地良く過ごせるように工夫している。	利用者がテーブルを囲んで塗り絵や季節の製作を行い、笑顔で会話をしており、家庭的な雰囲気でも過ごしている。施設内には湿度、温度計が設置され、適切な温度、湿度が保たれるよう、工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士が気兼ねなく、テーブルを囲んで会話等をして過ごしている。入居者が一人で過ごせる場所や環境を作りも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、心地良く過ごすことができるよう工夫している。	利用者は使い慣れたタンスや布団、亡くなった母親の遺影等、思い入れのある物を持ってきており、その人なりの部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるよう、文字等で工夫したり、車椅子、シニアカー、杖等を使用している方にも安全に生活が送れるよう支援している。		